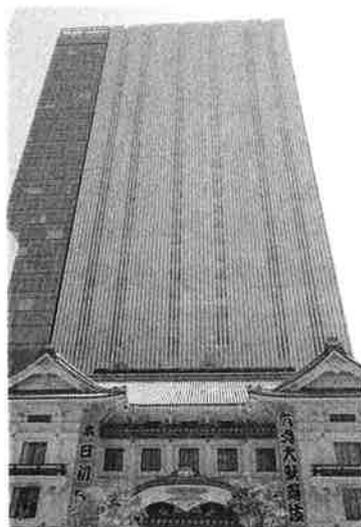


「銀座」がキーワードの「歌舞伎座16階医療コンソーシアム」 銀座医院が核となり松竹や日本調剤も結集

○…「歌舞伎座は伝統文化と現代技術が融合した日本で唯一無二の場所です。そこには全国から観劇に多くの人が集まってきます。ここに新しく生まれた銀座医院は外来診療、プレミアムドックで1次予防としてのエイジングケアを加えた新たな医療の形をつくり、皆さんの健康を現在から未来へつなぐきめ細かなケアを提供していきます」。5月31日、東京・銀座4丁目の歌舞伎座タワー16階に開所した医療コンソーシアムの披露パーティーで冒頭湖山医療福祉グループの湖山泰成代表は竹田義彦院長とともにあいさつした。続いて松竹株式会社の迫本淳一社長、調剤薬局チェーン大手の日本調剤株式会社の三津原博社長らが医療コンソーシアム形成への期待を込めてあいさつ。銀座で医療機関が核となった文字通り多業種融合の医療コンソーシアムのスタートである。「コンソーシアム」とは「国内外の枠を超えて企業や銀行が提携する企業連合、資本連合のこと」と辞書にあるが、医療機関が核となって、演劇、映画などエンターテインメント企業として国際的に知名度の高い松竹と、全国500薬局をネットワークし、連結売上1400億円にのぼる巨大医療関連ビジネスが企業連合を組むということとはかつてない動きで、大きな時代の変化を感じさせる。

○…この多業種企業の結びつきを手繰ってみると「銀座」をキーワードに不思議な人脈、縁が絡んでいる。松竹の迫本社長と銀座医院の竹田義彦院長は慶應大学出身。さらに、この日のセレモニーに顔を



歌舞伎座の背後にそびえる32階の高層タワー（隈研吾氏設計）

見せた歌舞伎役者の中村時蔵丈も慶大出身。銀座医院長補佐として竹田院長を支えるエイジングケアの久保明医師も一期下の同窓、医療法人湖聖会理事長の湖山聖道氏と竹田院長の父親同士が東大医学部出身という縁もあった。湖聖会は30年前銀座医院からスタート



歌舞伎座タワー16階医療コンソーシアム開所式での鏡割り（3階花籠で）

し、銀座の地域医療にこだわってきた。その執念がこのコンソーシアム形成につながった。仕掛け人の湖山代表は「銀座で最大のクリニックになりました。銀座の地域医療を担うことはもちろんですが、歌舞伎を観に全国から集まってくるシニアの方々の健康をフォローし、また、食事やショッピングを楽しんで銀座文化を堪能してもらおうサービスにつながったらうれしい。また、松竹の迫本社長も歌舞伎座タワーを作った動機もそんな狙いもあったのです」と本音を漏らしていた。

○…このコンソーシアムの中核になる銀座医院の竹田義彦院長のプロフィールを紹介しよう。1978年慶大医学部卒、85年から拠点を米国に移し、ミズリー州立大学に6年間、その後ジョージア大学の准教授としてリウマチ疾患の研究と臨床に従事、通算20年間米国にとどまり実績を上げ、2008年帰国し、新赤坂クリニック総院長に。11年に銀座医院院長に就任。最近ではエイジングをサイエンスとして捉えていくことを目標にしている。院長補佐の久保明氏は77年慶大医学部卒、東京都済生会中央病院を経て96年高輪メディカルクリニック設立、東海大医学部抗加齢ドック教授として、抗加齢ドックを開発し、予防医学、アンチエイジング医学の確立に注力、昨年、銀座医院に移った。竹田院長と久保医師の連携は「プレミアムドック」と「エイジングケア」の新天地を切り拓く。ドックのビッグデータを活用してエイジングケアをライフサイエンスとして考えていくことが新鮮だ。また、銀座医院は聖路加国際病院心血管病センターのサテライト施設としての機能も発揮していく。歌舞伎座タワー16階の医療コンソーシアムはそんな基盤の上に立つ。今後が楽しみだ。